



番外編 思春期

「のびのび通信」は、おおむね2歳頃から小学校の低学年位までの子どもたちを対象にした発達のことや子育てに関する情報を発信しています。今回は「番外編」として、小学校の高学年位からの、いわゆる思春期の子どもたちの特徴や関わり方について、お伝えします。この内容を解説する動画版(①～③)もありますので、そちらも合わせてご覧ください。

甲賀市発達支援課 R7.2(発行)

まずは、「思春期」の特徴をみていきましょう。次に、それらの特徴に合わせて、大人は子育ての方針をどのように転換していけばよいのでしょうか。子どもにとっても、大人にとっても結果的に一回り成長できる…「思春期」とはそういうタイミングなのかもしれません。

思春期の子どもの特徴 まとめ

「こころ」と「身体」のどちらも成長の途中なため、アンバランスな状態。

気持ちの強さ、私の強さは高まるが、自分の行動をコントロールする力は不十分

社会経験が少ないまま、自分の感性(好き嫌い、興味関心)に基づいた行動をしたがる

「早く独立したい」「自分ならこうしたい」
⇔「依存していたい」「一人では不安」



思春期は大人が「子育て方針の転換」をする時期

子どもの「保護」から、「尊重」へ

「親の価値観」から、「色々な価値観」「自分の価値観」へ

「失敗させない関わり」から、「サポート付の失敗」へ

思春期の関わり方の工夫

「親の言い分」を押しつけてではなく、選択肢として伝える。

- (1) 「わたし」を主語にする
- (2) 肯定的な表現にする
- (3) 具体的な表現にする
- (4) シンプルに言う

「子どもの言い分を聞く」という姿勢が伝わるように聞く。

- (1) 社会のルールで決めつけない
- (2) 命令調で質問しない
- (3) 大人の理屈・論理で決めつけない

「発達の特徴をもつ思春期の子ども」への関わり方

「視覚的」に聞く・伝える

- ✓ 文字や絵にすると、聞かれていることがわかりやすい
- ✓ 聞かれていることがわかると、自分の思いや答えが自覚しやすい

暗黙のルールや常識でも具体的に伝える

- ✓ 「言われなくてもわかるはず」と決めつけず、「どうしてか(理由)」も説明する

変更や変化があるときは、事前に伝える

- ✓ 変更や変化の理由を伝える
- ✓ どうすると良いかを伝える(A案がダメだった場合は、B案にする、など事前に話しておくことも良い)

「聞き方」「伝え方」の実践動画

「気持ちの温度計」

- ・感情や気持ちのコントロールがしやすい。

「人との距離の見える化」

- ・常識や社会的ルールが理解しやすい。

「予定や変更の見える化」

- ・先の見通しがもちやすい。



発達支援課ホームページをご覧ください。

- ✧ のびのび通信のバックナンバーや発達支援の動画をアップしています。
- ✧ 発達支援課(甲賀市役所2階)では、発達支援に関する書籍(幼児だけでなく、学童から成人の発達障害、不登校、ひきこもり、就労について等々の本も多数あります)を貸し出しています。詳しくはホームページをご覧ください。

発達支援課 0748-69-2178

発達支援課 HP⇒

